

劍道けんどう
(相原泥舟あいはらでいしゆう)

白刃如冰日本刀

男兒提是氣方豪

錯節一閃活人術

錯節斷來修鍊高

解説 劍道を通じてを心の修練を詠じたもの。

白刃はくじん 氷こおりの 如ごとき 日本刀にっぽんとう

男兒だんじ 是これを 提ひっさげて 氣きは 方まさに 豪ごうたり

劍光けんこう 一閃いっせん 活人かつじんの 術じゆつ

錯節さくせつを 断たち 来きたつて 修しゆう 鍊れん 高たかし

語釈 ※劍道||日本古来の武術の一つとして操刀の技法
太刀打ちを中心に発展してきた劍術に基づいている。

※日本刀||日本固有の鍛冶製法によつて作られた刀類の
総称。※白刃||鞘さやから抜いた刀の刃。※劍光||つるぎの
ひかり。※一閃||ものの動きのきわめてすばやいさま。
※活人||人を生かすこと。※錯節||入り組んでいて解決
しにくい事件や問題。※修鍊||心身を厳しく鍛えること。

通釈 日本刀の刃は氷の如くに白く、男兒が日本刀を手に
持つと勢いが盛んになる。刀を一閃することは活人の
術と同じだ。錯節を断ち切つて、心身を厳しく鍛える事
こそ志こころざしが高くなるであらう。